

国連経済社会理事会一般討論における三ツ矢副大臣ステートメント（骨子）

- MDGs の達成期限が 2015 年に迫っている。極度の貧困の半減等、既に達成された目標もあるが、未達成の目標も多く存在。まずは MDGs 達成に向けた取組の加速が必要。
- 2015 年より先の国際開発目標の策定に向けた議論も進んでいる。持続可能な開発目標オープン・ワーキング・グループ、持続可能な開発のためのファイナンスング戦略に関する政府間委員会及び事務総長統合報告書の成果に期待。
- 日本は、個々人に焦点を当てつつ多様な開発課題に取り組むため、簡潔、明快かつ野心的なポスト 2015 年開発アジェンダは人間の安全保障を指導理念とすべきと考えている。6 月 18 日に行われた総会テーマ別討論では、ポスト 2015 年開発アジェンダにおける人間の安全保障のアプローチの有用性について、建設的な議論が行われた。ポスト 2015 年開発アジェンダの策定に当たっては、このテーマ別討論の議論も踏まえるべき。
- 人間の安全保障の理念の下で開発のために重要な要素は包摂性、持続可能性、強靱性。開発の過程で拡大した格差の問題に対処するためには、「誰一人取り残さない」包摂的な成長が必要。また、経済・社会・環境の 3 側面をバランス良く統合した持続可能な開発、そして紛争や災害、経済危機といったリスクに負けない強靱な社会を構築することが必要。
- 世界の人口の約半数が都市に居住。本年の経社理のテーマである都市化についても包摂的、持続可能、強靱でなければならない。本日、名古屋に本部がある国連地域開発センター（UNCRD）と国連経済社会局が「持続可能な都市開発のための資源効率の推進」というテーマでサイドイベントを実施し、私も出席して冒頭挨拶を行ったが、世界的な都市化の進行の中で、資源効率に配慮した都市化を進めることで、持続可能性を確保することが必要。持続可能な開発のためには、こういった地域レベル・国レベル双方の取組が必要。地域開発に取り組む UNCRD への拠出を加盟国に呼びかけたい。
- 災害に強い都市作りも必要。ポスト 2015 年開発アジェンダにおいては防災を主流化することが必要。7 月 10 日に防災に関するサイドイベントを主催するので是非参加いただきたい。また、来年 3 月には東日本大震災の被災地である仙台で第 3 回国連防災世界会議が開催されるので、防災主流化を推し進める大きな機会であり、皆様にも是非参加いただきたい。
- 効果的、革新的かつ包摂的なポスト 2015 年開発アジェンダの策定及び実施のためには、説明責任の確保が重要であり、そのための包括的なメカニズムがポスト 2015 年開発アジェンダの中に直接盛り込まれるべき。ハイレベル政治フォーラムで行われている議論が重要。
- 各ゴールの達成のためのグローバル・パートナーシップと実施手段の議論も重要。開発資金については、ODA に加え、国内資源の動員、南南・三角協力、民間資金の活用が重要。伝統的な南北対立を乗り越えて建設的な議論を行い、普遍的な目標に向けてすべてのステークホルダーが力を合わせる新たなグローバル・パートナーシップを提示できるよう、同僚各国に協力を求めたい。（了）